

第八回学術研究フォーラム  
「科学研究のよりよき発展と倫理の  
確立を目指して」

平成28年11月29日

郷 通子

1

## 学術研究フォーラムとは？（1）

1. 「我が国の学術研究の明日を語る会－ノーベル賞連続受賞を祝して－」(2001年11月27日)のメッセージの趣旨を踏まえて、  
学術研究の隆盛を願う者が集い、交流し、発信することによって我が国の学術研究振興に寄与することを目的として、  
研究者の任意団体として、学術研究フォーラムを平成14年(2002年)4月に設立。

2

# 学術研究フォーラムとは？（2）

## 2. メンバー（発足時の幹事）

末松安晴先生（当時、国立情報学研究所長）

阿部博之先生（当時、東北大学長）

石井紫郎先生（東京大学名誉教授）

池端雪甫先生（当時、東京外国語大学長）

小平桂一先生（当時、総合研究大学院大学長）

小林陽太郎様（当時、富士ゼロックス会長）

白川英樹先生（2000年ノーベル化学賞受賞）

鈴木昭憲先生（当時、秋田県立大学長）

野依良治先生（2001年ノーベル化学賞受賞者）

郷 通子（当時、名古屋大学理学研究科教授）

### 日本学術振興会

日本学術振興会にお願いし、このフォーラムの趣旨をご理解いただき、本日の開催が実現。

3

## これまでの学術シンポジウム

発足会 我が国の学術研究の明日を語る会—ノーベル賞連続

受賞を祝して—（国立科学博物館）

第1回 学術と「産学連携」～産学連携とひとづくり～（名古屋大学）

第2回 学術と「産学連携」—人文学の振興と産学連携—（同志社大学）

第3回 生活者の視点に立った学術研究（お茶の水女子大学）

第4回 学術と「産学連携」（東北大学）

第5回 科学の限界と技術の限界？—想定外を考える—（東北大学）

第6回 学術研究における女性—学術のダイバーシティを求めて—（東京大学）

第7回 「科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して」

（日本学術振興会）

第8回 「科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して」

（日本学術振興会）

4

# 自由な発想・のびやかな研究のために

- 「研究活動における不正行為の対応等に関するガイドライン(文部科学大臣決定 26-8-26)」発表
- この決定がルールとして機能するためには、現場の研究者、研究指導者などの意識改革と所属機関の研究者育成の考え方に負うところが大きい。
- 第八回学術シンポジウム:不正行為の予防を主眼に自由な雰囲気の中での研究活動を前提とする

5

## 第8回学術シンポジウム 科学研究のよりよき発展と倫理の確立を目指して

1. 研究不正を無くし、学術研究を健全に発展させるために自由な雰囲気の中で、研究活動を進めて行くことが大切。
2. 大学における若手研究者の育成  
指導者としての教授や他の研究者とは異なるテーマに挑戦して、若いうちから独立して新分野の開拓を目指すべきでは？ 指導者である教授は、若手研究者と雑談するなどの時間を確保して、研究の作法(研究ノートの記事など)や「失敗の連続」を克服した先達としての経験を紹介する。論文の書き方について、繰り返し指導する。赤ペンで真っ赤になるまで直された経験は大切である。

6